安全データシート

作成日2001年10月24日

改定日2021年11月 1日

1、化学品及び会社情報

化学品の名称 : サンカット ML-5

供給者の会社名称 : 出光NTG株式会社
住所及び電話番号 : 212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館15階
TEL : 044-386-1659 FAX : 044-386-4159
緊急連絡先 : 078-731-8147
整理番号 : 437201100

2、危険有害性の要約

化学品の GHS 分類 :

物理化学的危険性

引火性液体	:	区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	:	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	:	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	:	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	:	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	:	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:	分類できない
呼吸器感作性	:	分類できない
皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	分類できない
発癌性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回曝露)	:	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(反復曝露)	:	分類できない
誤えん有害性	:	分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)	:	分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	:	分類できない
オゾン層への有害性	:	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル　：　右図の通り
注意喚起語　：　警告
危険有害性情報　：　皮膚刺激

注意書き　：
使用前に取扱説明書を入手すること。保護眼鏡,保護手袋を着用すること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
眼に入った場合　：　水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合　：　医師の診察/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合　：　多量の水と石けんで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合　：　医師の診察/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぐこと。再使用する場合には洗濯をすること。
容器は密栓して保管すること。都道府県知事の許可を得た産業廃棄物処理業者により、保険衛生上危害を生じるおそれのない方法で処理する。

3、組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：　化学物質（脂肪酸 n-ブチルエステル）
化学名又は一般名　：　脂肪酸（C=14～18、不飽和 C=16～18）のブチルエステル
官報公示整理番号（化審法、安衛法）　：　2-798
CAS No .　：　85116-79-6 (Butyl ester of fatty acids(C14-18 and C16-18 unsaturated))
化学式、含有量（組成%一例）　：

化学名	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
脂肪酸（C=14～18、不飽和 C=16～18）のブチルエステル	R-COO-nBu （R：脂肪酸残基）	2-798	85116-79-6
主成分 オレイン酸ブチルエステル （n-ブチルオレート）	$CH_3(CH_2)_7CH=CH(CH_2)_7COO$-nBu	2-798	142-77-8

安衛法対象物質　：　含有せず。
PRTR法対象物質　：　含有せず。
毒劇法対象物質　：　含有せず。
危険有害成分　：　含有せず。
危険有害不純物　：　含有せず。

４、応急措置

吸入した場合 :

直ちに新鮮な空気の場所へ身体を移し、鼻をかみウガイした後、安静に保つ。

呼吸困難の時は衣類を緩め気道を確保した上で、酸素吸入を行い、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 :

汚染された衣類、靴などを直ちに脱ぎ触れた部分を大量の水で洗浄した後、石鹸を使ってよく洗い落とす。 付着した部分に赤斑等の変化、痛みが続く場合、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 :

清浄な水で刺激が軽減するまで15分以上洗眼、又は洗眼しながら眼科医の元へ行き手当てを受ける。 本品が眼に入った場合はできるだけ早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。 洗眼を始めるのが遅れるまたは、不十分であると眼に障害を生じる場合がある。

飲み込んだ場合 :

水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳又は生卵を飲ませて、無理には、吐かせない。

直ちに医師の処置を受ける。もし意識がない時は、無理に吐かせず、口から何も与えてはならない。

応急措置をするもの者の保護に必要な注意事項 :

救護者は、ゴーグル又は防災面、ゴム手袋等の適切な保護具を着用する。

５、火災時の措置

適切な消火剤 :

ABC粉末消火剤、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂等

使ってはならない消火剤 :

棒状の水

火災時の特有の危険有害性 :

燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法 :

火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。

関係者以外は、安全な場所に退避させる。 周囲の設備などに散水して冷却する。

製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないように適切な措置を行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 :

消火作業では、適切な保護具（手袋、保護眼鏡、防毒マスク等）を着用する。

燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

６、漏出時の措置

人体に対する注意事項,保護具及び緊急時措置 :

必ず保護具（手袋、保護眼鏡、マスクまたは防塵マスク等）を着用し、風上より作業する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

環境に対する注意事項 :

漏出物を河川や下水等の公共用水域に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 :

少量の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウェス等）で吸着させ取り除いた後、残りは河川用水路に流さないように石鹸水等で洗い流す。

多量の場合、付近への流出拡大防止のために、周囲を土砂等で囲って流出を防止し、ドラム等に回収する。 大部分を回収した後、河川、用水路に流さないように石鹸水等で洗い流す。

海上の場合は、オイルフェンスを張り拡散を防止し吸着マット等で吸取る。

薬剤を用いる場合は、国土交通省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

二次災害の防止策 :

火花の発生しない道具を使用する。床に濡れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるために注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。

7、取扱い及び保管上の注意

取扱い :

技術的対策

労働安全衛生法等の関連法規に準拠して作業する。

取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

容器を粗暴に取扱わない。 火気を近づけないようにする。 蒸気の吸入、眼、皮膚及び衣類へ付着がないように、適切な保護具を着用し、出来るだけ風上より作業する。

取扱い時は、乾燥して風通しの良い場所、又は適切な換気装置を作動した場所で行う。

安全取扱注意事項

火気厳禁。 高温物、スパーク、火炎を避ける。作業場の換気を十分に行う。

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。 取扱後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

保管 :

適切な保管条件

通気の良い場所、湿気の少ない倉庫で容器を密閉し保管する。 火気厳禁。

酸化剤、直射日光、高温物を近づけない。

安全な容器・包装材料

製品使用容器に準ずる。

その他

品質を損なう恐れがある為に、高温・局部加熱を避ける事

使用後は、出来るだけ内容物を完全に取出し、空容器は密栓して所定の場所に集積しておく。

8、ばく露防止及び保護措置

許容濃度等 :

管理濃度 : 設定されていない。

日本産業衛生学会、ACGIH : 設定されていない。

設備対策 :

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

保護具 :

呼吸用保護具 : 必要により有機溶剤用防毒マスク

手の保護具 : 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋

眼, 顔面の保護具 : 側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型保護眼鏡または全面保護眼鏡)

皮膚及び身体の保護具 : 静電気防止加工長袖作業衣、耐油性作業服及び耐油性長靴

9、物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	淡黄色
臭い	:	僅かに特異臭あり
融点/凝固点	:	-12℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	180～220℃/5mmHg
可燃性	:	あり
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	:	情報なし
引火点	:	196℃ (open cup)
自然発火点	:	情報なし
分解温度	:	情報なし
pH	:	情報なし
動粘性率	:	情報なし
溶解度	:	水に不溶。アルコール、エーテル等の溶剤類に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	:	情報なし
蒸気圧	:	情報なし
密度及び/又は相対密度	:	0.863～0.870 (20℃)
相対ガス密度	:	情報なし
粒子特性	:	情報なし

10、安定性及び反応性

反応性	:	アルカリ物質と混合して加熱すると分解して石鹸を生じる。
化学的安定性	:	通常の保管や一般的な使用条件では安定。
危険有害反応可能性	:	通常の状態では安定。
避けるべき条件	:	直射日光、加熱、火源、アルカリ、酸化剤との接触をさける。
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	特になし。

11、有害性情報 (人についての症例、疫学的情報を含む)

急性毒性

経口 : 区分に該当しない

類似化合物オレイン酸イソブチルにおいて、LD50 (ラット)＞2,000mg/kg であることから、当該品も同等とした。

経皮 : 分類できない(有用な情報なし)。

吸入 : 分類できない(有用な情報なし)。

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2 皮膚刺激

ウサギを用いた試験(OECD404)で刺激性の記述あり

眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 分類できない(有用な情報なし)。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 分類できない(有用な情報なし)。

生殖細胞変異原性 : 分類できない(有用な情報なし)。

発がん性 : 分類できない(有用な情報なし)。

IARC、NTP、日本産業衛生学会 : 設定されていない。

生殖毒性 : 分類できない(有用な情報なし)。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない(有用な情報なし)。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない(有用な情報なし)。

皮膚への長期または繰り返しの接触、付着したままの放置は炎症等を引き起こす恐れがある。

誤えん有害性 : 分類できない(有用な情報なし)。

12、環境影響情報

生態毒性 : 分類できない(有用な情報なし)。
残留性・分解性 : 生分解性は良好であると判断される。
活性汚泥濃度:30ppm 被験物濃度:100ppm 試験期間:2週間 分解率:63%(BOD)
生態蓄積性 : 分類できない(有用な情報なし)。
土壌中の移動性 : 分類できない(有用な情報なし)。
オゾン層への有害性 : モントリオール議定書の付属書に列記されていない。

13、廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物), 当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で, かつ, 環境上望ましい廃棄, 又はリサイクルに関する情報 :

・廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理および清掃に関する法律)、消防法を遵守し、適正な処理をする様に依頼する。
・空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法(廃棄物の処理および清掃に関する法律)、および関係法規・法令を厳守して、適正な処理をするように依頼する。

14、輸送上の注意

国連番号 : 該当なし。
品名(国連輸送名) : 該当なし。
国連分類 : 国連の分類基準に該当しない。
容器等級 : 該当なし。
海洋汚染物質 : 該当しない。
国内規制がある場合の規制情報 :
陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等の規定に従う。
海上輸送 : 船舶安全法の規定に従う。
航空輸送 : 航空法の規定に従う。

輸送の特定の安全対策および条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。
〈消防法内容〉(消防法 危険物 第4類第3石油類)に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

15、適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質管理促進法	:	該当しない。
労働安全衛生法	:	該当しない。
（通知対象物質）	:	含有しない。
（ガン原性物質）	:	該当しない。
（変異原性物質）	:	該当しない。
毒物及び劇物取締法	:	該当しない。
消防法	:	危険物　第4類引火性液体　第3石油類（非水溶性液体）　危険等級Ⅲ
化審法	:	特定化学物質・指定化学物質に該当しない。
船舶安全法	:	該当しない。
航空法	:	該当しない。
火薬類取締法	:	該当しない。
高圧ガス保安法	:	該当しない。
海洋汚染防止法	:	該当しない。

物質登録情報

TSCA	:	収載あり。
EINECS（ELINCS）	:	285-531-8（Fatty acids, C14-18 and C16-18-unsatd., Bu esters）

16、その他の情報

環境ホルモン（外因性内分泌撹乱化学物質）の該当物質は、含有せず。

引用文献

1）　REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCES
2）　STN REGISTRY
3）　既存化学物質安全性点検データ

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理的／化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものでは有りません。
また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものでありますので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。